

## 2.1.1. 課題①市町村の広報活動が不十分:自治体

### 原因

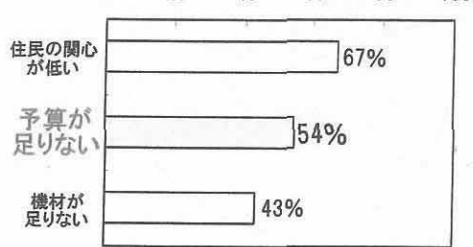
#### ● 検診の有効性に不信

- ・有効性を示す“エビデンスのある”検診と、有効性の根拠が不十分な検診の混在 **1.2.2(参考)検診の有効性への不信**

#### ● 予算が不足

- ・市区町村の半数以上が予算不足と認識<sup>※1</sup>
- ・受診者の増加に伴う費用負担増<sup>※1</sup>

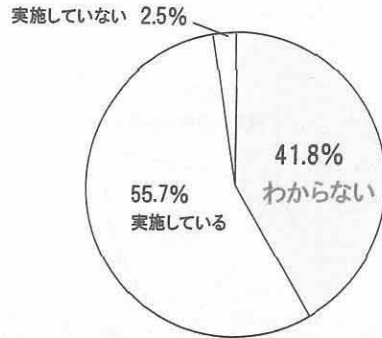
受診率50%の実現不可能な理由(全国69市区)<sup>※1</sup>



### 結果

#### 課題① 市町村の広報活動が不十分

自分の市区町村の検診実施の有無について<sup>※2</sup>



(出典) ※1: 朝日新聞「がん検診50%目標困難」2008/1/6  
 ※2: gooリサーチ「第2回乳がんに関する2万人女性の意識調査」2006/10

## 2.1.2. 課題②生活者の検診に対する自分事化が不十分:生活者

### 原因

#### ● 情報源が限定的

- ・「理解」を促すインターネットチャネルでの情報供給が不十分

日常の情報源: ネット(30.2%)<sup>※1</sup>  
 がんに関する情報源: ネット(10.5%)<sup>※2</sup>

#### ● 「がん」や「検診」に関する理解が不十分

- ・がんに関する理解が不十分

-30人に1人以上が乳がんにかかることを知っている人: 22.2%<sup>※3</sup>  
 -早期発見であれば95%が治ることを知っている人: 52.1%<sup>※3</sup>

- ・「検診」に関する理解が不十分

-厚生省の指針「40歳以上の女性は、2年に1回のマンモグラフィと視触診による検診を原則とする」を知っている人: 17.1%<sup>※3</sup>

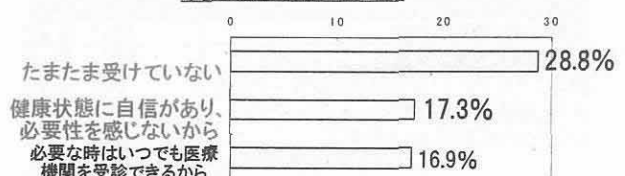
### 結果

#### 課題② 生活者の検診に対する自分事化が不十分

がん検診の関心度について



未受診の理由(上位3位)<sup>※2</sup>



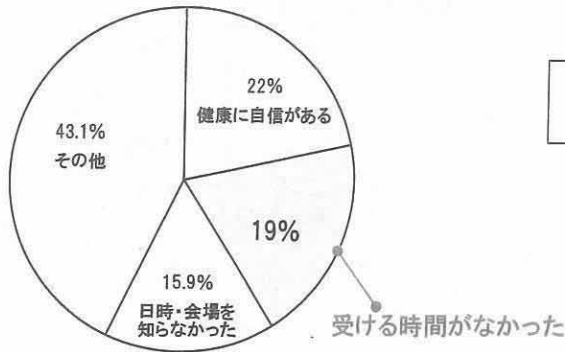
(出典) ※1: 博報堂「買物におけるWebの影響度調査結果速報」2007/7 ※2: 内閣府大臣官房政府広報室「がん対策に関する世論調査」2007/9  
 ※3: gooリサーチ「第2回乳がんに関する2万人女性の意識調査」2006/10

## 2.1.3. 課題③ 就業者のがん検診受診率が低い: 企業

### 原因

#### ● 就業者が受診する時間がない

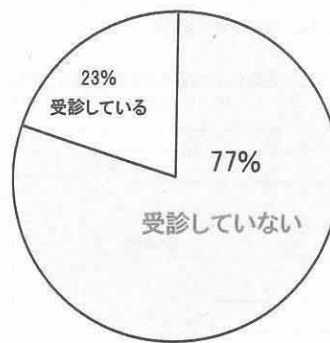
就業者ががん検診受診を受けなかった理由(上位3位)<sup>※1</sup>  
(大腸がん検診)



### 結果

#### 課題③ 就業者のがん検診受診率が低い

就業者のがん検診受診率<sup>※1</sup>  
(大腸がん検診)



(出典) ※1: 東京都福祉保健局「職域及び学校(大学等)における健康診査等の実態調査結果」2006

## 2.1.4. 課題④ 検診機関で受診者視点の対応が不十分: 検診機関

### 原因

#### ● がん検診に関する人材や設備不足

適切な検査医/検査技師、検診装置が不十分<sup>※1</sup>

- 日本医学放射線学会の仕様基準を満たす乳がん検診装置は現在使用中の約半数のみ

#### ● がん検診の利便性に偏りがある

がん検診受診者への便宜<sup>※2</sup>  
(全国の781市のうち607市から回答あり)

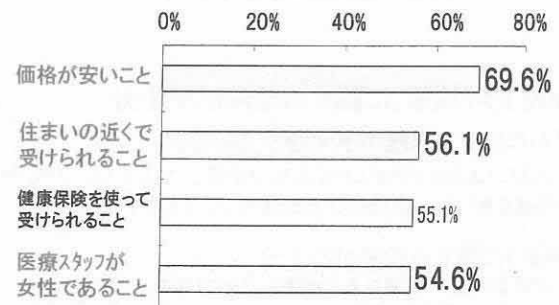
取組内容	自治体数	割合
複数の受診場所の確保	494	81.4%
土日祝日等の検診実施	366	60.3%
遠方である等アクセスが困難な受診者への対応	66	10.9%
夕方・夜間の検診実施	64	10.5%
インターネットなどを用いた予約制度	24	4.0%

取組内容に偏りがある

### 結果

#### 課題④ 検診機関で受診者視点の対応が不十分

どのような環境であれば検診を受けやすいか(乳がん)<sup>※3</sup>  
(N=23537)



(出典) ※1: がん検診に関する検討会

※2: 日本公衆衛生協会「がん検診の受診率向上に向けた有効な手段の開発に関する研究報告書」(平成19年3月)

※3: 第3回乳がんに関する2万人女性の意識調査「goof」サーチ2007/10